

事業事前評価調書

路線・河川名	一般府道 <small>てんのうかめおか</small> 天王亀岡線	事業名	防災安全交付金	補助・単独の別	補助
事業主体	京都府	事業箇所（区間）	亀岡市 <small>ほんめちやうにし かや</small> 本梅町西加舎 地内		
事業概要	目的	<p>一般府道天王亀岡線は、大阪府能勢町天王から京都府亀岡市～大阪府能勢町天王を起点とし、亀岡市本梅町湯ノ花城に至る延長約 16.5km の一般府道で、国道 477 号と主要地方道園部能勢線を結ぶ重要な路線である。</p> <p>本事業区間は、本梅小学校の児童の通学路となっているが、道路の幅員が狭く、歩道も未整備であるため、歩行者・自転車と通過車両が錯綜し、安全な通行に支障をきたしている。</p> <p>本事業は、歩道を設置することにより、歩行者及び車両通行の安全な通行を確保するものである。</p>			
	内容	<p>整備延長：L=445m 現況幅員：W=5.5m 計画幅員：W=5.5m(9.5m)2車線、歩道片側 2.5m 事業費 約 2 億円</p>			
	上位計画等	<p>京都府夢実現プラン 南丹地域振興計画 亀岡市都市計画マスタープラン 亀岡市通学路交通安全プログラム</p>			
事業の必要性	事業を巡る社会経済情勢及び地元情勢等	<ul style="list-style-type: none"> ○自動車交通量 4,510 台/日 (H27 センサス) ○自転車交通量 24 台/12h (") ○歩行者交通量 7 人/12h (") ○歩道が未整備のため歩行者は路肩を通行しており、安全で円滑な通行ができない状況。 ○亀岡市通学路交通安全プログラムの要対策箇所に位置付けられていることから、早期の歩道整備が求められている。 ○ほ場整備事業と一体となって事業を進捗させることにより、用地交渉や土地利用について、効率的に地域整備を進めることができる。 			
事業の有効性	事業の効果及び費用対便益等	<ul style="list-style-type: none"> ○歩道整備により、通学路における歩行者の安全確保及び円滑な自動車交通を確保する。 ○幅 2.5m の歩道を整備し、誰もが安心・安全で円滑に移動できる歩行空間を確保する。 			
事業の効率	コスト縮減代替案立案等の可能性及び良好な環境形成・保全	<ul style="list-style-type: none"> ○国が進めるほ場整備事業と一体的に事業を実施することで、歩道の盛土工事等において盛土材料の工事間流用によりコスト縮減が図れる。 ○バリアフリー構造の歩道として整備し、歩行者及び自転車の交通環境が改善される。 ○歩行者と車両を分離することで、交通の円滑化が図られる。 ○二次製品を積極的に使用しコスト縮減を図る。 			
総合評価	<p>本事業は、国が現在進めているほ場整備事業と合わせて実施することにより、効率的に事業進捗を図ることができ、早期に事業効果が得られるため、新規着手の必要がある。</p>				

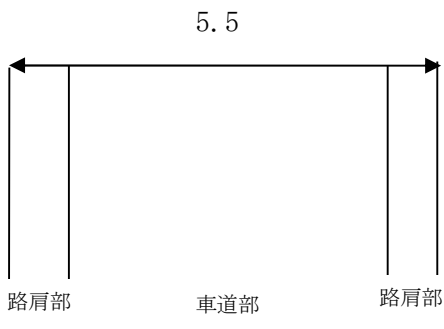


【概要図】

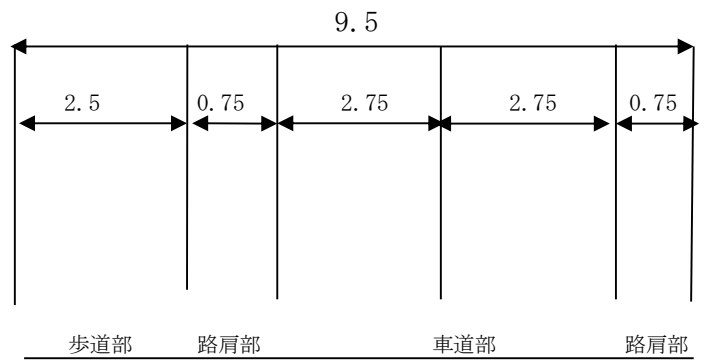


【位置図】

標準断面図（改良前）



標準断面図（改良後）



【現況・計画横断面図】（単位 m）



【現況写真】

『環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

作成年月日	令和3年3月11日
作成部署	建設交通部道路管理課

事業名	(一)天王亀岡線 防災・安全交付金(交安)事業	地区名	亀岡市本梅町西加舎～井手地内
概算事業	約2億円	事業期間	令和3年度～
事業概要	歩道整備 L=445m W=5.5(9.5)m		
目指すべき環境像	一般府道 天王亀岡線(西加舎～井手)は、歩道が未整備であることから、歩行者と車両が輻輳し、非常に危険な状態となっている。 亀岡市通学路交通安全プログラムに基づき、歩道整備を行うことにより、円滑な車両交通の確保と安全な歩行空間を確保するものである。		
関連する公共事業	亀岡中部農地整備事業本梅工区		

	評価項目		施工地の環境特性と目標	環境配慮・環境創造のための措置内容	環境評価
	主要な評価の視点	選定要否			
地球環境・自然環境	地球温暖化(CO ₂ 排出量等)		当該地区は、山に囲まれた自然豊かな箇所であるため、これら自然環境の維持・保全が必要となる。	地形改変を最小限に留めることで、自然環境の維持・保全に努める。	3
	地形・地質	○			
	物質循環(土砂移動)				
	野生生物・絶滅危惧種				
	生態系				
	その他				
生活環境	ユニバーサルデザイン	○	当該地区は通学路交通安全プログラムの要対策箇所であるが、歩道が未整備であり、安全な歩行空間を確保する必要がある。 事業実施に伴い騒音・振動が予測される。	バリアフリー構造の歩道を設置し、誰もが安全に通行できる歩行空間を整備する。 早朝、夜間の工事を極力避けるとともに、低振動、低騒音の建設機械を積極的に使用する。	5 3
	水環境・水循環				
	大気環境				
	土壌・地盤環境				
	騒音・振動	○			
	廃棄物・リサイクル				
	化学物質・粉じん等				
	電磁波・電波・日照				
地域個性・文化環境	景観		当該地は、井手遺跡埋蔵文化財包蔵地である。	府教育委員会と随時協議しながら、工事実施前には十分な調査を実施し、記録・保全を図る。	3
	里山の保全				
	地域の文化資産	○			
	伝統的行祭事				
	地域住民との協働				
	その他				
外部評価					